

## 衣浦港3号地埋立処分場建設問題シンポジウム発言メモ

産業構造の変化で過剰となった臨海用地埋立造成計画を処理したい企業庁の思惑と、税金投入で安上がり処分場を求める財界の思惑が一致したのが、衣浦港3号地ゴミ処分場建設計画ではないか。

### ◆産業廃棄物発生と処分場建設の悪循環をどう断ち切るか

今日、考えたいのは、産廃発生と処分場建設のイタチごっこ、悪循環をどう断ち切るかということです。

「埋立処分場の残りの量が少ない。このままではまもなく産廃があふれる。民間の処分場は住民の反対でなかなかつくれる。だから、公共関与（県など地方公共団体出資の第3セクター）で」という理屈で、公共関与による埋立処分場建設の話が出ています。

ぼう大な産廃が処分場建設を促し、海がつぶされるなど環境破壊が進行する。地球環境にも影響を与える状況になっています。衣浦港3号地埋立処分場建設問題を通じ、産廃問題を産廃発生源にさかのぼって考え、これまでのあり方を転換する契機にすることが求められているのではないか。

ゴミの9割が産廃です。産廃対策はゴミ対策の中心課題です。ゴミ問題解決の方向として3Rがいわれます。①リデュース（発生抑制）、②リユース（再利用）、③リサイクル（再生利用）です。製造段階での①リデュース（発生抑制）が一番大事です。製品が廃棄物になる場合、製造者が最後まで責任を負うことが大事です。

産業界や関係自治体の要求ということだが、彼らは、ゴミの発生そのものを減らすこと、発生したゴミを減量化し埋立量を少なくすることを本気でやっているのでしょうか。廃棄物を出さないようにする原材料や製造システムの新たな研究開発、環境対策にはお金がかかる。それよりも公共関与の処分場へ持ち込んで埋めた方が安くつくというのが動機ではないか。

名古屋市は名古屋港の藤前干潟に焼却灰の埋立処分場建設を計画しました。市民の反対で断念しました。処分場が確保できないという切羽詰まった事態になって、ゴミ減量化作戦に踏み切りました。

住民が安易な処分場建設に反対することは、企業や地方自治体に3Rの実行を本気にさせる力になります。

### ◆公共関与の広域最終処分場について

産廃処理の原則は「排出事業者責任原則」です。廃棄物処理法は第3条第1項で「事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない」としています。公共関与の処分場建設は、この原則の形骸化をうながすおそれが

あります。

愛知県の1999年の埋立処分量190万7千ト/年でした。そのうち公共関与の処分場に埋め立てられた割合は37.1%です。94年18.4%と比べ2倍に増えています。公共関与で、「排出事業者責任原則」が曖昧にされてはならないと思います。

#### ◆ 愛知県の産業廃棄物の埋立処分状況

愛知県の産廃の発生量は増えてきていますが、90年代後半からは停滞、減少気味です。景気や廃棄物処理の改善で埋立処分量は大幅に減っています。

愛知県の埋立量の3割以上をしめているのが汚泥です。汚泥は、減量化、資源化がすすみ、埋立量は減っています。産廃の種類によって方法は様々でしょうが、埋立量を減らすことができるという点が大事です。

行政は、需要、この場合、産廃の埋立処分量ですが、過大に見積もることが多いのです。愛知県の産廃埋立量の場合、99年の実績は190万トですが、97年に県がつくった「第6次産業廃棄物処理計画」では358万ト見込んでいました。実績より2倍近く多く見込んで処分場づくりをすすめてきた。

#### ◆ アセックについて

県は衣浦港3号地埋立処分場の事業主体として、アセック（（財）愛知臨海環境センター）を考えています。アセックは県が28%出資して設立され、知多市の名古屋港南5号地で埋立処分場を運営しています。

アセックに持ち込まれる廃棄物の量の推移を見ると、過去のピークは95年の80万6千ト。2004年はその3分の1の27万4千トに低下しました。搬入産廃の3割を占めていた汚泥が激減しました。その他の産廃と一般廃棄物は横ばいか、減少傾向です。

#### ◆ 埋立産廃の移出入状況

他県から愛知県に大量の埋立産廃が入ってきていることも見逃せない問題です。

1994年度の移出40万7千トにたいし移入は14万7千トで出超でした。ところが、1999年度)には逆転し、移出18万2千トにたいし移入40万1千トで入超になりました。

愛知県に入ってくる埋立産廃量入40万1千トというと、同年埋立処分量190万7千トの2割に当たる大変な量です。首都圏からが多いといわれていますが、移入産廃が民間処分場にどんどん入っている。

「埋立処分場の逼迫」といいますが、中味に踏み込んで調べないと、適切な解決方向を見いだすことはできません。処分できるところ、処分量の安いところを求めて産廃トラックが全国を走り回る事態です。これでは、廃棄物を発生源で減らすことになりません。

#### ◆ 産廃問題解決への突破口に

衣浦港3号地埋立処分場問題を通じて産廃をめぐる問題提起をいたしました。要は、産業廃棄物発生と処分場建設の悪循環を断ち切る方向は、ゴミを出さないシステムを製造段階からつくることだと考えます。安易な公共関与による埋立処分場建設は、海などの環境

を悪化させ、企業責任をあいまいにする、産廃問題の解決を遠のかせるおそれがある。

「環境万博」を開き、「環境先進県」をうたう愛知こそ、産廃問題解決の先頭に立つべきだと申し上げたいと思います。

\*私の発言中、アセックの経営状況について、当期収支について7億円の赤字と言いました。これについてその後の調査で、下記のことことが判明しましたので、ご報告いたします。NTT資金借入金のうち、一部（約10億円）の償還が認められたことにより、2004年度中に繰り上げ償還したため、見かけ上マイナスになったものです。営業上の赤字ではありません。